TOKUSHIMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

すだち

ISSN 1341-6014

徳島大学附属図書館報

No.63

Contents

新館長としての抱負……巻頭
平成13年度附属図書館事業計画について…… 4
附属図書館整備・改善の歩み…… 6
“図書館は成長する有機体” いつも変化しています。
●本館学術雑誌閲覧室の配置等変更について…… 8
●ネットワークサービスはこう変わる！？…… 9
ちょうりゅう（トピックスのページ）…… 10
蔵本分館24時間開館実施状況
講習会
『電子ジャーナルの現状と展望』
蔵書の書誌・所蔵データ遡及入力事業の開始
本館学術雑誌閲覧室の時間外特別利用
学術雑誌新着配架状況
ネットワークサービスの推移
中国四国地区大学図書館協議会研究集会開催
学術情報に関する講演会［平川　南先生］
本学教官著作寄贈図書／会議／研修
人事異動／編集後記…… 12

新館長としての抱負

森　田　雄　介

館長選考時に附属図書館運営委員会に提出しました候補者の所信抱負等にもとづいて新館長としての抱負を述べたいと思います。

はじめに

大学図書館は，13世紀以後ヨーロッパにおける大学の誕生とともに設立されるようになったと言われています。その時から現在に至るまで，大学図書館の機能は，基本的に変わっていないと思います。すなわち，教育研究に必要な資料を収集・整理・保存して，主な利用者である学内の学部学生・大学院生・教職員に資料提供のサービスを行うことが基本的な機能であると思います。しかし，その機能は時代の変化，潮流に合わせて改革発展させて行くべきものであり，その利用環境は利用者の積極的な利用を前提に，快適で利用のしやすさを重視したものでなければならないと考えています。

以上のような基本的な考え方に立って，つぎの課題に重点をおいて取り組んで行きたいと思います。

1　電子図書館的機能の強化

情報技術の急速な進展により大学図書館をとりまく環境が大きく変化しています。ネットワークを介する所蔵資料のオンライン検索，CD-ROM形態による資料の出版，インターネットを利用して提供される電子ジャーナルの出現など，最近では日常茶飯事となり珍しくなくなってきました。このように図書館資料やサービスの在り方も変化していく必要があり，総合情報処理センターや関係方面と連携協力し合い，電子図書館的機能の充実・強化をはかって行きたいと考えています。

2　情報リテラシー教育の実施

学生諸君に図書館利用をベースとしたキャンパスライフの重要性を認識してもらうために，電子図書館的機能の利用に関する講義・実習を含む情報リテラシー教育をカリキュラムに導入することができないかを検討します。電子的端末機器を利用して情報を検索することを通して自主的に学べる，キャンパスライフの中心的な場としての機能が図書館に求められていると考えるからです。

3　本館・分館の重要課題の解決

・図書館への学術雑誌の集中化

コアジャーナルを選定して図書館へ集中配架しようとする新たな動きがありますが，本館・分館の学術雑誌，特に外国雑誌の図書館への集中率はまだまだ少ないようですので，全学的共同利用，情報提供サービスの向上のため，集中化の促進をはかりたいと考えております。部局へ配分された校費（国費）で購入する学術雑誌の選択は教官に委託されますが，その利用面では教官個人（研究室）の利便のみを優先することなく，学術情報の共有（シェアリング）という観点に立って，広く学内外からの利用にも対応できるよう管理運用されなければならないからです。

・本館の増改修実現に向けて

平成14年度概算要求事項になっており，時代の変化に対応した機能性の拡充，放送大学・徳島学習センターとの連携の促進などがはかれるよう計画を立てて要望して行きます。今回の増

改修の狙いとして，その必要性と方向性が明確に計画に反映されなければなりませんが，現建物での欠点，不都合な内容として，以下の点が指摘されています。

閲覧室，学生自習室，書庫など，ほとんど全てのスペースが区切られており，館内全体の内部空間に空間的広がりが見られず，開放性，柔軟性，快適性に欠ける。

開架閲覧室にするスペースが限定されている。

新着雑誌を配架展示するスペースに事欠く状況になってきている．利用者の入り口が2階となっており，利用者がアプローチしにくい構造になっている，また，身障者への対応ができにくい。

書庫スペースが限界にきている。

建築から30年が経過し，狭隘化，老朽化が進捗しており，時代に即したサービスの展開に支障が生じている（耐震性にも若干の危惧がある）。

4　研究機能の設置

図書館も技術革新の波に絶えず洗われており，現状維持では時代遅れをとってしまいます。これを防ぐには，図書館自身が研究機能を持つ必要があると思います。例えば，情報サービスの技術，古い図書の保存方法，新しい学習教材の研究，用語やシソーラスの問題など．こうした研究機能を持つことにより，図書館のサービスも向上し，また図書館の社会的重要性も広く認識されるようになると信じています。本学図書館には，教官組織がありませんので，専門知識を持つ教官の協力や科学研究費補助金を申請していただける教官組織の設置などについて図書館運営委員会で検討していただきたいと思います。

5　平成13年度附属図書館事業計画の実現に向けて

平成13年度附属図書館事業計画（運営委員会承認）の実現に向けて対応して行きます。上記4までの課題と重複しない事業計画として，図書館資料の充実，利用者サービスの改善，データベースの充実，自己点検・評価及び業務の改善，広報活動があげられています。詳細については，本号に掲載されている4～5ページの記事を参照してください。

おわりに

利用者にとって利用しやすい快適な図書館を目指して，微力をつくす覚悟でございます。図書館に関するご要望，ご意見等がありましたら，情報サービス係へ直接（電話：本館656－2157，分館633－7417）またはE-メール（info@lib.tokushima-u.ac.jp）でお寄せいただければ幸いです。

（もりたゆうすけ・附属図書館長）

平成13年度附属図書館事業計画について
－新たな発展への胎動をめざして－

木　村　伸　夫

去る4月10日に開催された今年度の第1回附属図書館運営委員会において承認された事業計画の基本的事項についてご紹介します。
昨年度の実施状況の中から，トピックス的なできごとについても触れておきたい。

1　平成12年度の新たな動き

昨年度の事業の中で，特筆できることがいくつかあります。第一は所蔵図書目録情報の遡及入力が本格的に始まったこと，第二に本館学術雑誌閲覧室の24時間利用体制の整備が出来たこと，第三に学術雑誌のうち，コアのものについて大学全体の共通経費で支えるという動きがでてきたことです。

(1)　所蔵図書目録情報の遡及入力

本学で所蔵している図書のうち，平成2年以前に受入れ，目録情報の未入力（旧来のカード目録でしか図書が探し出せない）は，昨年度当初約36万冊ありました。いうまでもなく，これらを入力しますと，いつでも，どこからでも端末機さえあれば探し出すことが出来ます。

10カ年計画を立て，第1年次分の予算が認められ，3万6千冊の計画を少し上回る4万冊弱の遡及入力を達成することができました．今後も継続事業として続けていきたい。

(2)　本館学術雑誌閲覧室の24時間利用体制の整備

かねてより常三島地区でも学術雑誌の共同利用を促進させるため，図書館への集中化を呼びかけてきました。その結果，現在約390種類の雑誌が共同利用に供され，一主題である程度まとまっている雑誌は「主題別配架」を行い，利用しやすいように配置しています。また，「いつでも利用できる」ために，夜9時以降も利用できるよう24時間利用のシステムを整備いたしました．教官と院生の利用に限定していますが，多くの方の利用をお待ちしています．このスペースには複写機も配置しています。

(3)　コアジャーナルへの新たな動き

外国で発行されている学術雑誌価格の毎年の高騰ぶりには目を見張るものがあります。本学においても，過去から現在に至るまで，値上がりに応じて「見直し」という名の「種類数の削減」を不本意ながら続けてきました。購入予算の財源が基本的には学部に配当された予算の中から賄われており，過去5年間で200種類近くが削られているのが現実です。このまま進めば，世界の先端的な論文の載っているある分野でのコアになる雑誌さえもが本学から姿を消すことになる危険性があります。“重要な論文はコア学術誌に集中する”（『大学ランキング2002』p.58（朝日新聞社刊））という学術雑誌の特性，学術情報の流れからいって，看過できない問題であろうと思われます。

学長からの示唆もあり，附属図書館の運営委員会での議論を経て，コアジャーナル選定の作業に入り，その経緯等について予算委員会へ報告いたしました。同委員会の活発な議論を期待します。

2　平成13年度の事業計画

(1)　建物，施設・設備の更新

①　本館の増改修要求

本館は昭和46(1971)年に新築，53(1978)年に書庫増設，60(1985)年に増築されている．新築から30年を経て，今回，増築に伴って内部の全面的な改修を企図するものです．

いうまでもなくこの30年間に世の中全体の驚異的な変化，あるいはコンピュータ，情報技

術，ネットワークのまさに革命的ともいえる進歩等があります。

大学図書館にとっても，電子図書館機能の整備・充実が急務とされているところですが，施設面でもそれに適したものにしていく必要があります。

全国的な大学改革の大きなうねりの中で，徳島大学にとってもこの30年の成長･発展はめざましいものがあります。附属図書館が本学の研究教育の支援機構として，さらに大きな機能と役割を果たせるように時代にあった図書館となれるよう増改修計画に取り組んでいきたい。

また，放送大学「徳島学習センター」との連携を促進し，本学の社会貢献，生涯学習への寄与にも附属図書館として，一定の役割を担いたいという考えを持っております。

② 図書館入退館システム

本館・分館とも図書無断持ち出し防止装置(Book Detection System)を設置してから，長期間の使用となっているため，高機能の入退館システムに更新し，業務の合理化，効率化及び入館者状況の多面的な統計を取ることにより，図書館経営の発展にも結びつけていきたい。

(2) 図書館資料の充実

前述のコアジャーナルについて，さらに大学全体の理解を得られるよう働きかけていきたい。

電子ジャーナルは今後，ますます必要不可欠になってきますが，国立大学図書館協議会等の動向を注視し，さらに充実に努めていきたい。

学生用図書費の確保には関係方面との折衝も行い，自学自習に一層役立てられるようにしたい。

(3) 利用者サービスの改善

① 試験期間中の延長開館

今年２月に行った利用者アンケートに出された特徴的な意見として，せめて試験期間中だけでも夜間開館の時間を延長してほしい，という内容が多く見られました。これを受け，前期と後期の試験中（開始前の一定期間を含む），夜11時まで延長することで，準備作業を行っております。

② 利用者教育の改善

図書館の効果的利用や情報利活用のための利用者教育を適切に行い，内容を向上させていくよう努めていきます。

(4) データベースの充実

所蔵図書目録情報の遡及入力について，本年度は社会科学分野を行う予定です。

(5) 自己点検・評価及び業務の改善

昨年８月に行った附属図書館職員自身による自己点検，本年２月の利用者アンケート，さらに近く行う教官と院生へのアンケート調査により，自己点検・評価に結実させていきたい。

昨年，本館・分館間の整理業務の集中化，一元化を目的としたWGの結果により，本年４月には新しい体制をとり，業務改善に取り組んでいます。

3 今後の課題

(1) 総合情報処理センターとの連携

学内関連機関・施設との協力関係をうち立てること，とりわけ総合情報処理センターとの連携は不可欠となってきます。同センターが中心となって学術研究委員会で答申された「徳島大学における高度情報化の推進について」は本学にとって是非とも実現させねばならないものですが，そのためには両者の緊密な関係が期待されてきます。

(2) 図書館職員の意識改革や創意工夫など

さらなる人員や予算の削減，独立行政法人化への移行等，国立大学や附属図書館を取り巻く環境は従来とは質を異にしています。この中で，大学の研究や教育を支え，サービス業務を維持・発展させるには，容易ならざるものがあります。旧弊や慣習にとらわれず，意識改革や未来をみすえた創意工夫がなによりも求められています。

（きむらのぶお・図書館事務部長）

附属図書館整備・改善の歩み

区分		実施経過	
		平成2年度～平成7年度	平成7年度～平成10年度
組織・機構		事務組織改組（平2） 部課制設置（平3） 附属図書館事務組織改組（平4） 館報編集委員会（平6） 附属図書館図書選定委員会（平6）	蔵本分館図書選定委員会（平8） 附属図書館将来計画検討委員会の設置（平9）
図書館機能	総合	土曜開館実施（平4） 英文利用案内作成（平5） MLニュースを速報版に変更（平6） 学外者利用案内作成（平6） 本館夜間開館時間延長（平6） 自己点検評価報告書刊行（平7） 蔵本分館試験期夜間開館時間延長（平7）	LibraryAnnouncement（すだち速報版）創刊（平9） 館報の刷新（平9） 本館書庫入庫制限の変更（平9） 特別貸出（教室貸出）方式の変更（平9） 図書館学外者利用申請の変更（平9） 図書館利用案内の刷新（平9） 学報掲載の統計情報リメイク（平10） 図書館将来計画の策定（平10） 夜間開館時間の通年延長（分館）（平10）
	学習	共通教育選書計画策定（平4）	学生用図書購入計画の見直し（平9） 『これならできる情報リテラシー』に参考資料Ⅱ掲載（平10）
	研究	情報検索サービス開始：JOIS（本館：平2） 大型コレクション整備（平3） ILLシステムによるサービス開始（平4） ファクシミリ文献複写サービス開始（平4） 大型コレクション整備（平5，7） ILLシステムによるBLDSCサービス開始（平6） 自然科学系特別図書の整備（平7） 大型コレクションの整備（平7）	自然科学系特別図書の整備（平9）
	保存		
	電子	図書館専用電算機導入（平2年） 学術情報センター接続（平2） OPAC運用開始（平3） CD-ROMによる情報検索サービス開始（平5） 情報検索ガイダンス（分館：平3～） CD-ROMネットワークサービス開始（平6） 図書館専用電算機の更新（平6） UNIX版OPAC（TELNET）運用開始（平6） UNIX版CD-ROMサーバシステム（ERL）導入（平7） 電子メールによるILL申込受付（平7） 電子掲示板設置（平7）	UNIX版図書館トータルシステム導入（平8） WWWブラウザによるOPAC運用開始（平8） 古絵図の画像データベース化（学内特別教育研究費）（平9） 図書館ホームページ開設（平9） CAサーバーの導入（平9） ERL（CurrentContents，MEDLINE）検索講習会（平9） 伊能図・古絵図の高精細画像データベース化（科学研究費）（平10） 資料ID変換ソフト開発（平10） CAonCD，CIonCDネットワークサービス開始（平10） 無料電子ジャーナルサービス開始（平10） 視聴覚ライブラリーシステム導入（平10）
事業		泉山文庫目録改訂版（本館：平2） 学術情報に関する講演会（平3～） 学術情報センター地域講習会開催：目録システム（平4～5） 学術情報センター地域講習会開催：NACSIS-IR（平5） 国立大学図書館協議会総会開催（平5） 学術情報センター地域講習会開催：NACSIS-IR（平6）	学術情報センター地域講習会：ILLシステム（平10） 資料ID変換及びラベル添付作業（平10）
施設・設備		BDS設置（本館：平4） 情報検索コーナー設置（平5） 留学生資料コーナー設置（平5） 身障者用設備の整備（平6） 蔵本分館増改築（平6） 蔵本分館電動集密書架設置（平6） サイン整備（平7） 参考書架増設（平7） BDS更新（分館：平7）	学術雑誌閲覧室設置（平8） プリペイドカード方式複写機導入（本・分館：平成8） サービスカウンターの更新（本館：平9） 身障者用閲覧机増設（本館：平9） 図書自動貸出・返却装置導入（平9） 閲覧室椅子の更新（平9／10） 閲覧室椅子の更新（平10） マルチメディア・プラザの設置（本館）（平10） 特別資料閲覧室・展示室設置（平10） 雑誌閲覧室の整備（平10） カラーコピー機導入（分館）（平10）
要員研修		目録システム担当要員養成研修（平1～5）13名 大学図書館職員長期研修受講（平2～6）3名 総合目録データベース実務研修（平3～5）3名 情報検索システム担当要員養成研修（平5～6）23名 図書館等職員著作権実務講習会（平7）8名	大学図書館短期研修受講（平9）1名 図書館等職員著作権実務講習会（平9）1名 大学附属図書館短期研修受講（平10）1名 図書館等職員著作権実務講習会（平10）1名
規定・その他		資料不用決定取扱基準（平1決定） 図書選定委員会規約（平6）	図書選定委員会規約（平8制定） 貴重資料指定基準・取扱要領（平9） 徳島大学附属図書館広報委員会規約（平9） 徳島大学附属図書館館報発行要項（平9） 徳島大学附属図書館インターネットによる広報実施要領（平10） 徳島大学附属図書館館報発行要領（平10）

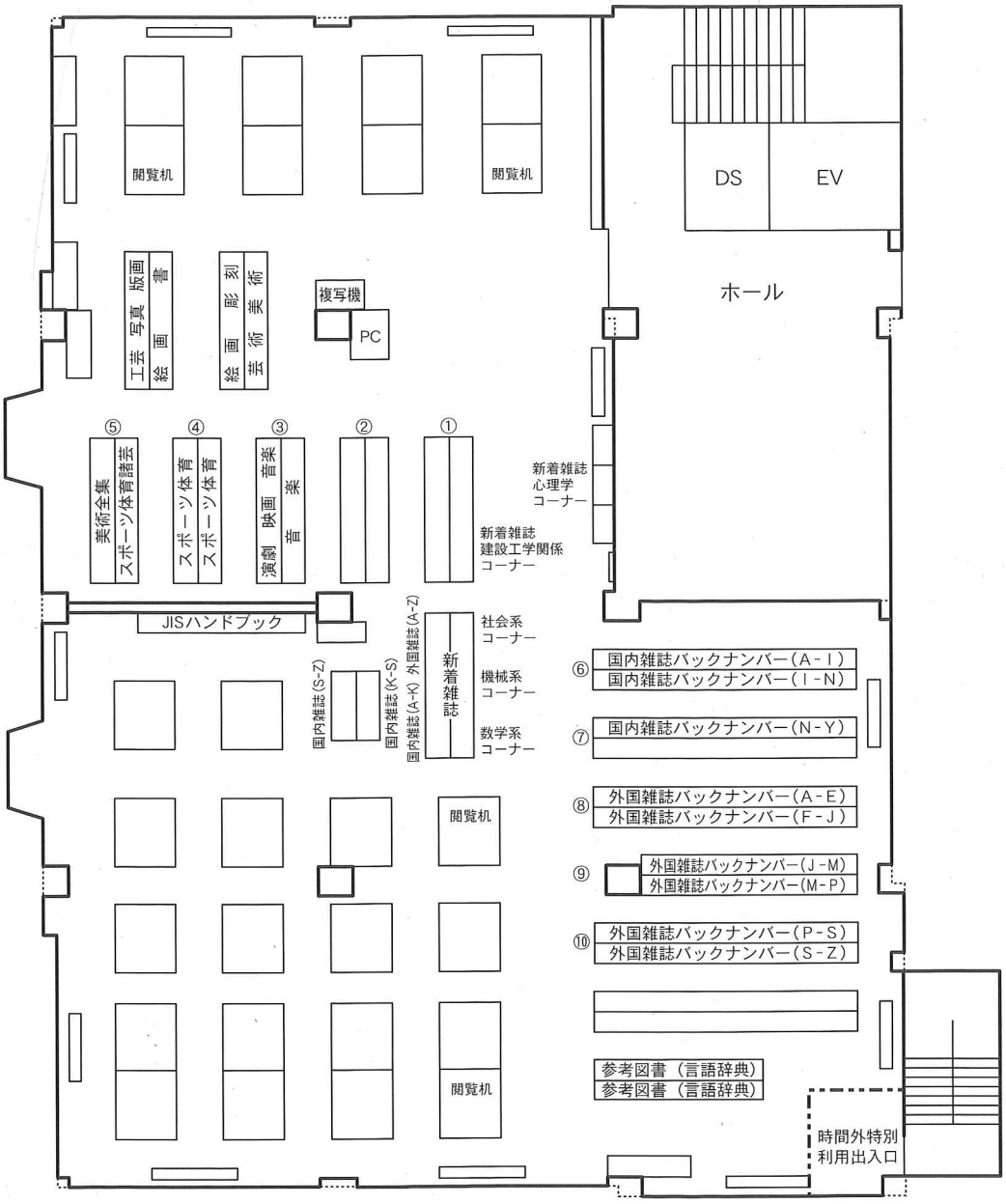
実施経過		今後の課題
平成11年度～平成12年度	平成13年度	
分館情報サービス係と分館情報調査係の統合及び電子情報係の設置（平12）	管理業務の合理化，一元化	事務組織の改編 研究開発室の設置
ボランティアの導入（平11） 日曜開館の実施（平12） 24時間開館の実施（平12）	夜間開館時間の延長（試験期） 自己点検評価	情報リテラシー教育の支援
参考図書コーナーの設置（平11） 『これならできる情報リテラシー』参考資料の改訂(平12)	学生用図書選書の迅速化	
学術雑誌の集中化（継続）（平11） 自然科学系特別図書の整備（平11）	学術雑誌共同利用の推進 コア・ジャーナルの整備	大型コレクションの整備 自然科学系特別図書の整備 電子媒体二次資料の充実
	古絵図の補修	収蔵スペースの確保
貴重資料高精細デジタルアーカイブ（WWW）公開（平11） 雑誌記事索引のネットワーク提供（平11） 図書館業務システムの更新（平12） 講習会『電子ジャーナルの現状と展望』（平12）	ホームページの充実 ネットワーク情報サービスの充実 目次速報データベースの遡及入力 電子ジャーナルの整備・充実 医学中央雑誌，雑誌記事索引のネットワークサービス	貴重資料の電子化 電子メディア利用の拡大 OPACデータの整備(遡及入力) 新CAT/ILLへの対応
徳島県立博物館企画展特別協力（平11） 新NACSIS-IR説明会（平11） 中国四国地区電子的資料購入のためのコンソーシアム形成W/G参加（平11） 情報検索講習会の実施（平11） 目録データ遡及入力（平12） 中国四国地区大学図書館研究集会開催（平12） 国立大学附属図書館事務部長会議開催（平12）	目録データ遡及入力（継続） 学術情報に関する講演会の開催	
単体CD-ROM検索システム設置（本館）（平11） 貴重資料高精細デジタルアーカイブ閲覧システム(平11) オーディオビジュアル・メディア室の設置（平11） グループ研究室の設置（平11） マルチメディア・コーナーの設置（分館）（平11） 閲覧机・椅子等の更新（平11～12） OCS端末機の増設（平11） 情報コンセントの設置（平12） 夜間入室システムの設置（平12） Arielシステムの本館・分館間試行運用開始（平12） マイクロリーダープリンター更新（本館）（平12）	視聴覚機器の整備	附属図書館の増改修計画 自動入退館システムの設置
	職員研修会（HPの作成，運用）	
貴重資料高精細デジタルアーカイブ取扱要領(平11) 徳島大学附属図書館ボランティア受入実施要領(平11) 徳島大学附属図書館オーディオビジュアル・メディア室利用要領（平11） 徳島大学附属図書館グループ研究室利用要領(平11)		

附属図書館本館学術雑誌閲覧室の配置等変更について

情報サービス係

附属図書館では，常三島，蔵本両地区の学術雑誌の集中化に努めています。平成13年4月から本館における集中化雑誌の増加及び学術雑誌閲覧室の24時間開館実施に伴い，本館2階学術雑誌閲覧室の配架雑誌等を下図のように配置変更をしました。新着雑誌のうち心理学，社会学，数学，機械工学，建設工学関係の雑誌は，分野別配架をしています。また，購読中雑誌のバックナンバーも3－5年分を配架しています。

2Ｆ学術雑誌閲覧室配架図



ネットワークサービスはこう変わる!?
ドキュメントデリバリの究極

電子情報係

1　現　　在

図書館を介した文献入手法は，引用文献とか2次データベース（MEDLINE，Current Contents等）検索結果をもとに，OPAC（Online Public Access Catalogue）を検索して，同一キャンパスにあれば，自分で文献コピーし，なければ，ILL（Inter Library Loan）を申し込み，じっと文献がくるのを待つ，というものです。

2　近い将来

～2次データベースと文献(1次データベース)の直結～

今年3月から4月にかけて，図書館では，Current Contentsのトライアルを行いました。このトライアルは，2つのメリットがあります。

一つはタイムラグ解消です。現在の方式は図書館のサーバにデータベースをダウンロードし，イントラネットによりサービスするものです。データベース作成組織（Silver Platter社）からデータがDATで届きインストールするまでのタイムラグがあります。

トライアルでは，直接インターネットでSilverPlatter社のデータベースサーバにアクセスするので，タイムラグが全くありません。（MEDLINE，医学中央雑誌，雑誌記事索引等は2001年4月以降この方式をとっています）

もう一つは，ダイレクトな論文入手です。

このトライアルでは，Silver Linkerというデータベースを付加しています。本学が購読している電子ジャーナルのデータと，Current Contentsデータベース本体をリンクさせるデータベースです。これにより，検索結果から，直接，本学購読電子ジャーナルのフルテキスト論文(又は，電子ジャーナルHP）にアクセスできるわけです。

端末の前にいながら，検索結果から，即座に必要な論文を入手できます。自らOPACを検索したり，電子ジャーナルHPにリンクしたり，コピーしたりする手間が省けます。

ユーザーのお考え，外国為替相場等に当然左右されますが，2002年度からCurrent Contentsについてこの方式に移行できれば，と考えています。

3　実現の可能性はある？

3－1　ILLシステムの改善

電子化されていない文献のコピーは今後も存続するので，それを提供するILLシステムも改善する必要があります。

画像伝送システムによる，研究室への直接配信です。（システム自体は現在当館でも評価・試験中です）

著作権法上の問題がクリアされれば，ILLの申し込みが既にメール・ホームページからの入力で行われているのに続いて，文献提供もネットワークサービスとなります。

3－2　購読電子ジャーナル数の飛躍的増加

2で述べたことが実を結ぶためには，リンクする相手である電子ジャーナルの購読が不可欠ですが，実際は，価格高騰，財政的問題等のため，タイトル数が増加していません。

電子ジャーナルのコンソーシアム化が，現在さまざまなレベルで進行中です。コンソーシアム化によって，財政的な問題が緩和され，閲覧可能な電子ジャーナルタイトル数が飛躍的に増加することが考えられます。

データベース作成組織の中には，多数の出版社と提携し，大きな電子ジャーナル群を統合して，さまざまな項目で検索できるシステムをパッケージとして提供するもの（例：EBSCOHost等）があります。医学図書館協会のコンソーシアムはこのタイプです。

これらの動きを注視しつつ，より良いドキュメントデリバリサービスを目指したいと考えています。

4　それでも図書「館」は永遠(とわ)に

日々生成する新説・異説・事実をフォローするのは電子ジャーナルですが，体系的な知識を獲得するためには，定評のある基本書が必要不可欠です。また，過去に出版された蔵書は発掘されるのを待つ宝の山です。それらは近い将来電子化する可能性がありません。さらに，膨大な非電子媒体である学術雑誌のバックナンバーが存在します。

電子的ドキュメントデリバリ部門が「図書館」概念から突出しても，本体である「図書館」は小動もしないと確信しています。新旧の顔を併せ持つヤヌスが，“マルチメディア”を標榜する図書館の姿だと思います。

ちょうりゅう

蔵本分館 24 時間開館実施状況

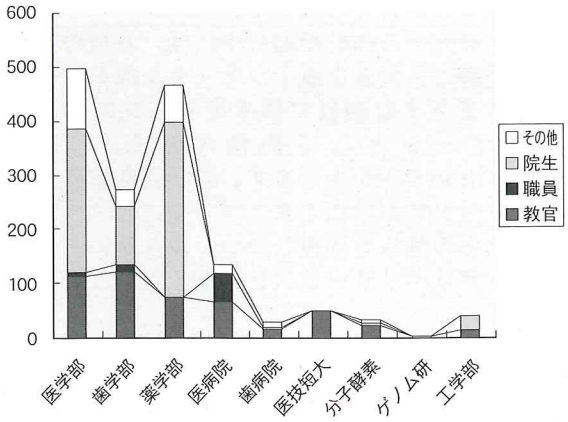
平成 12 年 5 月 8 日から，研究者を対象に時間外特別利用サービスを開始しています。

このサービスは，研究者がいつでも図書館にある資料（主に学術雑誌）を閲覧またはコピーが出来るように，時間外特別利用証を発行（400 名余り）し，平成 13 年 3 月 31 日現在 1,527 人（1 日平均 5.3 人）の研究者が利用しています．利用状況は，下記グラフのとおりです。

部局単位になっています。院生の利用が 50% 弱で最も多く利用しています。学部別では，医学部が一番多く，薬学部，歯学部の順になっています。

時間外特別利用証は，本学の教職員及び院生，研究生，専攻生並びに研究補助者等に発行していますが，本学を離れる方は，利用証を返却していただくことになっています。

日夜，研究をされている方々のお役に立てることを願っています。



講習会『電子ジャーナルの現状と展望』

研究者の皆様が電子ジャーナルと無縁ではいられない状況となっている今日，利用を促進するため，平成 12 年 5 月 24 日から 2 日間に渡って上記講習会を開催しました。

内容は
①日本，欧米における電子ジャーナル普及状況等
②今後の大手出版社の動向
③コンソーシアム化
④その他
です。

延べ 83 名の参加がありました．

蔵書の書誌・所蔵データ遡及入力事業の開始

附属図書館（本館）が所蔵する資料の所蔵情報を迅速に提供するためには，OPAC（オンライン蔵書検索システム）の充実が必要です。

本館ではすでに，29 万冊が入力され利用者にデータを提供していますが，まだ，約 36 万冊が未入力となっています。図書カード検索と OPAC 検索との併用による煩わしさと貸出・返却業務の省力化のため，本館では未入力図書の 36 万冊を第 1 期（5 年），第 2 期（5 年）で図書の遡及入力の 10 年計画を立て，この度，その経費が平成 12 年度教育改善推進費（学長裁量経費）により予算化されました。

平成12年10月よりアルバイト6名により，人文・社会学関係の図書 2.9 万冊を遡及入力し，職員が 1 万冊のデータ修正作業を行い合わせて 3.9 万冊の入力を行った。学内措置をいただいた初年度は，予定以上の成果をあげることができました。

附属図書館本館学術雑誌閲覧室の時間外特別利用

附属図書館本館では，平成 13 年 4 月から，教官・大学院生等を対象に本館 2 階学術雑誌閲覧室の時間外特別利用を開始しました。このサービスは，通常の開館時間以外に，学術雑誌の閲覧及びコピー利用に限って特別に利用できるものです。

このサービスを利用するには，専用カードが必要ですので，「時間外特別利用申請書」を本館 2 階サービスカウンターに提出してください。

学術雑誌新着配架状況

本　館

項　目	集中化	図書館費・寄贈	合　計
国内雑誌	102	64	166
外国雑誌	210	20	230
合　計	312	84	396

蔵本分館

項　目	集中化
国内雑誌	134
外国雑誌	265
合　計	399

ネットワークサービスの推移（トライアルを含めて）

■ EBSCOhostERIC ……2000/4～
■医中誌 Web
トライアル(1ユーザー) 2000/4～2001/3
本稼動（4ユーザー） ……2001/4～
■ Elsevier 社 SDWeb ……2000/4～6，11～
■ Elsevier 社 Science Direct ……2000/7～10
■ OECD「SourceOECD」トライアル
■米国化学会(ACS)電子ジャーナルトライアル …2000/11
■ PubMED（MEDLINE）……2001/1～
■雑誌記事索引（Web 版）
トライアル（1ユーザー）……2001/2
本稼動（4ユーザー） ……2001/4～
■朝日新聞記事 DNA
トライアル ……2001/2～3
■ OxfordUniversityPress 電子ジャーナル
……2001/2～
■ ERL インターネットサービストライアル
（Current Contents with SilverLinker）
インターネットでダイレクトにDBサイトへ…2001/3～4
本稼動……？

中国四国地区大学図書館協議会研究集会開催

平成12年10月25日から27日，徳島東急インを主会場として，標記研究集会が開催しました。国公私立併せて41大学から参加があり，「電子化」に対応した図書館のあり方について活発な討議，研究発表がなされました。

学術情報に関する講演会

平成12年12月8日，国立歴史民俗博物館から平川南教授をお招きし，「古代人の情報記録～木簡から読み解く」と題した講演会を開催しました。学内外から多数の聴講があり，質疑応答では，専門的な質問も飛び出し，予定時間をオーバーするほどでした。

本学教官著作寄贈図書

本　館

寄贈者	著者名	書名
伊藤利明	大橋守他著	改訂版これならできる情報リテラシー
石川栄作	石川栄作著	ニーベルンゲンの歌を読む
丸山幸彦	丸山幸彦著	古代東大寺荘園の研究
村田明広	村田明広著	宮崎県の四万十帯の地質

蔵本分館

寄贈者	著者名	書名
武田憲昭	武田憲昭外編	神経耳鼻科
高杉益充	高杉益充監修	薬剤識別コード事典平成13年改訂版

会　議

●学　内

平12．4．17 第1回附属図書館運営委員会
12．5．22 図書館電算化システム策定委員会
12．5．29 第2回附属図書館運営委員会
12．5．29 自己点検評価委員会
12．6．15 第1回医学部図書委員会
12．6．21 常三島地区運営委員会
12．6．21 図書選定委員会
12．7．5 蔵本分館学生用図書選定委員会
12．7．24 蔵本分館運営委員会
12．8．30 蔵本分館運営委員会
12．10．13 第2回医学部図書委員会
12．10．18 第3回附属図書館運営委員会
12．11．9 24時間入退館管理システム仕様書策定委員会
12．12．12 超高速ネットワーク・マルチメディアキャンパスシステム仕様策定委員会
13．1．9 学術雑誌コア・ジャーナル選定小委員会
13．1．29 学術雑誌コア・ジャーナル選定小委員会常三島地区委員会
13．1．30 第4回附属図書館運営委員会
13．1．30 自己点検評価委員会

●学　外

平12．4．27 第48回中国四国地区大学図書館協議会総会（於：ホテルモナーク鳥取）
12．4．28 第27回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会（於：ホテルモナーク鳥取）
12．5．18～19 第71回日本医学図書館協議会総会（於：秋田ビューホテル）
12．5．23 平成12年度国立大学附属図書館事務部課長会議（於：東京医科歯科大学）
12．6．27～29 第47回国立大学図書館協議会総会（於：金沢市文化センター）
12．10．12～13 平成12年度国立大学図書館協議会中国四国地区協議会実務者会議（於：広島大学附属図書館）
12．10．19～20 第36回日本医学図書館協会中国四国部会総会（於：広島大学医学部）
12．10．19 日本医学図書館協議会第4回理事会及び第3回評議会（於：野口ハウス）
12．11．13～15 2000年京都電子図書館国際会議（於：京都大学附属図書館）

研　修

平12．7．13 徳島県大学図書館協議会研修会（於：徳島文理大学）
7．10～28 平成12年度図書館職員長期研修（於：国立オリンピック記念青少年総合センター外）
11．27～30 平成12年度中国・四国地区国立学校等係長研修（於：徳島厚生年金会館）
11．14～17 平成12年度国立学校等幹部職員研修部長級（於：国立オリンピック記念青少年総合センター）

人事異動

平成12年6月1日
採　用　（情報サービス課情報サービス係）
清水真由美

平成12年7月1日
情報サービス課分館情報サービス係
杉本　和代　（情報サービス課情報サービス係）

平成12年10月16日
採　用　（情報管理課図書情報係）
竹内奈穂子，齋岡　孝子，林　真理子，大西　徳江，
有井　美保，金森　早美

平成13年1月1日
採　用　（情報管理課総務係）
西窪　彩

平成13年1月1日
採　用　（情報サービス課学術情報係）
四宮　章美

平成13年2月28日
辞　職　（情報管理課図書情報係）
藤井　佳代

平成13年2月28日
辞　職　（情報サービス課情報サービス係）
井手　啓文，沖津由紀子，嘉藤　哲也

平成13年2月28日
辞　職　（情報サービス課分館情報サービス係）
梅谷　泰子，西堀　泰英，森　親哉

平成13年2月28日
退　職　（情報管理課図書情報係）
竹内奈穂子，齋岡　孝子，林　真理子，大西　徳江，
有井　美保，金森　早美

平成13年3月1日
採　用　（情報管理課図書情報係）
渡辺　恵

平成13年3月1日
採　用　（情報サービス課情報サービス係）
安倍　智宏，西村　美保，野間　勇市

平成13年3月1日
採　用　（情報サービス課分館情報サービス係）
稲本　晴美，東　永子，小林菜穂子

平成13年3月31日
退　職　（情報サービス課情報サービス係）
清水真由美

平成13年4月1日
鹿児島大学附属図書館事務部長
安永　勉　（情報管理課長）

経理部主計課管財係長
佐野　章　（情報管理課総務係長）

医学部医事課専門職員
樫本　公一　（情報管理課図書情報係図書情報主任）

総務部研究協力課第二研究協力係研究協力主任
鈴江　真治　（情報管理課分館資料情報係分館資料情報主任）

鳴門教育大学教務部図書課情報サービス係
日高奈三江　（情報管理課雑誌情報係）

愛知教育大学附属図書館整理係
古田　紀子　（情報サービス課分館情報サービス係）

情報管理課長
河野　建二　（岡山大学附属図書館情報サービス課長）

情報管理課総務係長
福島　潤　（医学部学務課専門職員）

情報管理課図書情報係図書情報主任
福島　康宏　（医学部総務課第二総務係総務主任）

情報管理課雑誌情報係
平井　裕美（筑波大学図書館部情報サービス課体芸サービス係）

情報管理課分館資料情報係
杉浦　文雄　（鳴門教育大学教務部教務課生涯学習係）

情報サービス課分館情報サービス係
田中　孝次　（鳴門教育大学教務部図書課目録情報係）

情報管理課分館資料情報係長（併任）
上田　智一　（情報管理課図書館専門員）

情報サービス課学術情報係長（併任）
折原　善彦　（情報サービス課電子情報係長）

情報管理課雑誌情報係
力丸　葉子　（情報管理課分館資料情報係）

情報管理課図書情報係
藤田　洋子　（情報管理課分館資料情報係）

情報サービス課分館情報サービス係
小西三奈子　（情報サービス課情報サービス係）

情報サービス課情報サービス係
鎌田　智美　（情報サービス課分館情報サービス係）

採　用　（情報サービス課情報サービス係）
金森　早美

編集後記

あらゆる局面で変化に加速度がついている．いわゆるIT革命は産業革命に次ぐ衝撃を全世界にもたらしつつある，という。産業構造はいうに及ばず，人の生活様式そのものを変革してゆく，のだそうだ。

しかし，省資源・省エネルギーが前世紀末からの大きな課題であるにもかかわらず，IT革命の途上で物流が益々細分化される結果，内燃機関が“活躍”し，却って化石燃料の消費・CO_2排出は増大している。また，せっかくデジタル化されているものを紙媒体に出力して森林資源を“浪費”している学術雑誌その他の出版物がある。増加する物流の対象でもある。この館報も同様…

真にIT革命がこの地球に貢献するには，内燃機関から燃料電池への変換などのテクノロジー，そして，デジタルはデジタルとして享受するという人々のライフスタイルの変革が伴わなければならないだろう。この館報『すだち』も，デジタルオンリーを目指そう［Y/O］

URL　http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/
徳島大学附属図書館報「すだち」No.63
2001年5月31日
編集館報編集委員会
発行　徳島大学附属図書館
＜表紙デザイン・レイアウト＞　清水國夫
〒770-8507　徳島市南常三島町2丁目1番地
TEL(088)656-7584
FAX(088)656-9016